

# おおくら 議会だより



笑顔でよいしょ(大蔵小5年)



## もくじ

年頭のごあいさつ	2P
12月定例会	3P
一般質問	4~11P
編集部特集	12~13P
議会報告会	14~15P
あれからどうなった?	16P

風水にふれる里

第 **122** 号

2020.新春

発行/  
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地  
大蔵村議会 0233-75-2111  
編集/議会広報調査特別委員会 年4回発行  
発行責任者/議長 鈴木君徳  
印刷/共栄印刷株式会社

# 年頭のごあいさつ

新年明けましておめでとうございませう。平成から令和に入って初めての新年を迎えました。本村議会活動につきまして日頃より格別な御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、村では前年より自然災害も少なく、基幹産業である稲作と園芸作物ともに平年並みであったと思われまします。引き続き、農・産業の振興、少子化克服、人口減少抑制、空き家対策、老後対策等をより一層努力して参ります。

昨年も、議会改革として議会報告会を開催し村民との対話を重点において各地区を訪問しました。皆様から頂戴した貴重な御意見を検討し、村政に活かしてまいります。議員一丸となって努力して参る所存ですので、御理解と御協力の程よろしくお願い申し上げます。

昨年は村政一三〇周年式典も無事に終了いたしました。今年度は全国棚田サミットが本村において開催される予定ですので村民の皆様への御協力をお願い致します。

今年の干支は「ねずみ」です。子年は十二支の始まりです。猪年で結んだ種が新たに芽生えいろいろな方向へ育ち始める二〇二〇年子年。ねずみは、「寝ず身」という当てる字がある程働き者と言われており、大蔵村民そのものであります。今年も村民の皆様が幸多き一年となります様、また村が益々発展することを心から御祈念申し上げます。年頭のごあいさつと致します。

議長 鈴木君徳



本年もよろしく  
お願い致します。

議長 鈴木君徳

副議長 矢口智

議員 長南正一

八鍬信一

海藤邦夫

佐藤勝

加藤忠己

早坂民奈

佐藤雅之

齊藤光雄



## 一般質問

議案審議に先立ち  
8名の議員が一般質問

★佐藤勝議員  
「中山間地域をどう守る」 P4

★佐藤雅之議員  
「升玉小水力発電事業他」 P5

★加藤忠己議員  
「安心安全な村づくりのため」 P6

★早坂民奈議員  
「高齢でも住み続けられる村に」 P7

★長南正一議員  
「棚田の保全に積極的な耕作支援を」 P8

★海藤邦夫議員  
「清水合海地区の水害対策」 P9

★八鍬信一議員  
「学校給食の減免」 P10

★齊藤光雄議員  
「豪雨災害時の内水対策」 P11

12月定例会

# 豪雨災害復旧完成へ

12月定例会が5日から6日にかけて開催され、令和元年度補正予算6議案を含め、18議案を審議・可決。一般質問では8人が村当局の考えをただしました。

## 条例等の改正

- ◆大蔵村会計年度任用職員の給与改定  
(臨時職員の待遇改善)
- ◆大蔵村放課後児童クラブ施設設置条例の設定  
(正式に条例化し、施設改修を行う)
- ◆森林環境贈与税基金条例の設定  
(新設された国の法律に合わせ森林の整備を図る)
- ◆大蔵村特別職・一般職の給与改正  
(国の法改正に伴う手当の一部改定)
- ◆大蔵村印鑑条例の一部改正  
(女性の旧氏名や外国人の通称名での登録が可能に)
- ◆大蔵村道路占用料徴収条例の一部改正  
(消費税率の改正に伴うもの)

## 人事案件

- 副村長の選任  
(安彦加一副村長の再任について、賛成多数で可決)  
賛成：矢口 智、加藤忠己、長南正一、八鍬信一、海藤邦夫、佐藤 勝、齊藤光雄  
反対：早坂民奈、佐藤雅之(議長は採決に加わらず)

## 令和元年度予算

★令和元年度補正予算6議案を可決  
(ふるさと納税、国庫負担金の増、各種事業変更、給与改定等)

## 令和元年度補正予算

	補正額	総 額	主な補正内容
① 一般会計	1億8800万円	39億5860万円	国庫負担金、ふるさと納税の増
② 簡易水道	▼89万円	2億9740万円	工事費の減
③ 下水道	123万円	1億6650万円	修繕料の増
④ 診療所	28万円	2億3950万円	委託料、備品購入費等の増減
⑤ 介護保険	1052万円	4億7850万円	サービス給付費等の増
⑥ 団地造成事業	1700万円	2040万円	不動産売払い収入の増

- ★「次期食料・農業・農村基本計画に関する請願」⇒採択  
請願者：もがみ中央農協 農政対策本部 本部長 安食 賢一
- ★「小規模企業振興基本条例の制定を求める請願」⇒採択  
請願者：もがみ南部商工会 会長 佐藤 隆

## 請願の採択



佐藤 勝 議員

### 中山間地域をどう守る

#### 村長 地域と行政が一体となって

**問1** 大蔵村に限った事ではないが、具体策がないまま中山間地域の農業・集落の維持や消滅が問題化している。時代の流れと言えはそれまでだが、農政や公共性の考え方にも一極集中の感がある。自然消滅は誰の責任でもないが、何の施策も講じないで時期を待つのは、行政の任務と人道にそむく事になる。

**答1** 中山間地域の農業や集落の維持は年々困難になっていく事は承知している。農政や公共性の考えに格差があるのではないかと云う事だが、地域によって自然環境や人口も違う。国や県の事業は大型化に特化したもので、それに該当しない地域には村独自の支援を行っている。高齢化や過疎化等で地元での努力だけでは集落の維持や管理は困難な事であり、地域と行政が一体となった施策が必要である。

**問2** 中山間地域直接支払い制度も来年度から5期目に入る。

今度、国の制度が改正されると思う事だが、協定を結ぶ上で重要な制度の内容の説明が全くなく、地区民は不安を抱えている。過去に認識不足のため、規定違反による交付金の返還があった。

地域によっては、新たな協定を結べない場合、今まで交付金を活用した機械の購入代金がまだ残っている。また、農地の賃借の問題等行政の強力な指導が必要と思うが？

**答2** 5期目の制度には、5・6年先の農業を見据えた改正がある。

その中には規制の緩和や様々な加算があり、満額交付の場合、村全体で約5,000万円が交付される。また、単集落での協定が困難な場合、他の集落と提携した協定も考えられる。

**問3** 三和食品は、地域農業の振興や、雇用対策にも欠かせない事であるとの認識で誘致した会社であるが、当初の約束や計画に沿った稼働をしているのか？また、有効活用の為に、生産者・行政・農協・会社等との話し合いの場を、行政が積極的に設けるべきではないか？誘致をすれば事業が終了ではないと思うが。

**答3** 計画通りには進んでいないが、ある程度の成果はある。

どんな事業でも直に目標を達成出来るものではないが、今後目標達成に向けて村民一体となって努力していくので、皆様の理解と協力を願います。



佐藤 雅之 議員

### 住民目線での升玉小水力発電事業のメリットは何か

#### 村長 法人から自治体への寄付が禁じられているため地域活性化策の結論は出していない

**問** 大蔵村も加わった3者の出資による特定事業目的会社（SPC）が小水力発電事業の準備を進めている。再生可能エネルギーへの転換は必要だが、この水力発電事業が村民の福祉向上や村の財源確保になるか明らかではない。事業費は約10億円で内8億5千万円強が銀行団等からの借り入れとなる。会社の年間収益は概算で1億円となっているが、毎年の返済金や管理費

などを差し引いた資金繰りや分配利益はどのようになるのか。再生可能エネルギー事業に村は1億円の基金を用意したが際限なく穴埋めするようなことにはならないのか。「事業利益還元による地域活性化」というが具体的な内容は？

**答** 事業を通じて地域の活性化を図るといふ強い意思で会社を構成している。地域活性化に寄与する財源が、毎年の返済金や管理費

電所の稼働率が8割とし、他の株主の配当をすべて村の活性化事業に使うという前提では、固定買取価格制度期間中は、年間700万円程度、5年毎の大規模な修繕の年は300万円程度。ただ、それぞれに配当を行えば、その額の49%が村の持分。また、配当や地域貢献を行うためには、銀行団が定める借入金の融資条件をクリアする必要がある。その期間が3年から5年必要。

「基金を通じて、SPCへの際限のない穴埋めに繋がる」との懸念が示されたが、

最悪の状況でも株主合計で2億5千万円の純資産を用意することで銀行団等と合意しているので、際限なく資金を提供することはない。

事業利益還元による地域活性化については、法人の場合、本社所在地の自治体への寄付が禁じられているので、例えば村が主体の学習教室事業や教育講演会事業などをSPCが主催することを考えている。また、電気自動車充電施設整備やロードヒーティング実証実験などの生活環境整備、発電学習支援や発電公園整備

### 高校卒業までの子どもの医療費無料化を実施する決意のほどは

#### 村長 令和2年4月から実施する決意

**問** 県内4市12町2村がすでに外来・入院とも子どもの医療費を無料化している。少子化対策や貧困対策が叫

ばれている中、村長も6月議会前で前向きな答弁をしたと思う。4月から大蔵村でも高校卒業までの医療費無

料化を村長が決意していることと受け止めてよいか。

**答** 6月議会で、医療費無料化の対象年齢引き上げについて発言した。令和2年4月から医療費無料化の対象を高校卒業までの子どもに拡大したいとの決意。



建設中の升玉小水力発電施設





加藤 忠己 議員

### 安心安全な村づくりのために 村長 人命尊重を最優先に

**問** 村政運営の基本的な考え方の中で村長の考える「安心安全な村づくり」とはどのようなものか。

① 防犯灯のLED化事業の終了で電気料金の負担が削減になったが、地区負担の電気料金を村で負担は出来ないか。また、防犯灯の増設は、  
② 防犯カメラを設置し、犯罪を起こしにくい環境を整備することが、安心安全につながる。公共施設に設置されているか。

③ 升玉水力発電所の発電された電気は売電の計画だが、災害等で東北電力の供給がストップした場合、一時的に村内家庭に供給できないか、また、令和2年の稼働に遅れはないか。

**答** 人命尊重を最優先することだと考える。そのうえで、産業の振興や人材の育成を図り、村民の幸せを願う福祉の充実した暮らしやすい村づくりを目指す。  
① 平成30年度から「防犯灯LED推進事業」を実施し、

施し、電気料金の負担は抑えられた。「地区公民館等活動費推進事業」により毎年各地区に19万〜21万円を交付し、地域活動の一部に充てている。村による地区の経費負担は考えていない。早期に全村のLED化を推進するため、増設は対象から外した。要望があれば対応する。

力発電所も自動で発電が停止する仕組み。また、新しく自前で電線を新設する方法もあるが、投資に多額の費用がかかる。発電には需要と供給のバランスを保つ必要があり、今のところ現実的ではない。  
想定外の大規模災害がない限り、令和2年の稼働に向けて、建設工事にあたっており、稼働できる。

② 大蔵小学校、中学校は設置している。他は警備会社に警備を委託しているのみで、設置していない。民間の設置状況は把握していないが、役場の玄関脇のATMには設置してある。凶悪な犯罪が全国で発生しているので、今後関係機関と連携しながら検討する。  
③ 電気事業法の系統連携として既存の電線に繋げる場合、停電が発生した時は、発電を停止しなければならぬ。升玉水



早坂 民奈 議員

### 高齢でも住み続けられる村へ 村長 安心安全な村づくりを行う



**問1** 「高齢となり思うように体が動かず、免許も返納し、自由に出かけられず不便になった。」との声もある。村外に転居する方もいるが、住み慣れた故郷で、元気に住み続けられるために質問します。

① バスのフリー乗降の利用と評判は。また、利用できない方のためどのようにフォローしていくか。  
② 食事を作るのも面倒になり、栄養が偏っていないか。そこで、宅食サ-

ビスを考えると。  
③ ゴミステーションまでが遠かったり、坂道等を持っていくのが大変。個人宅収集は出来ないか。  
④ 地区の公共施設の除雪は免除されているか。

**答1** ①10月よりフリー乗降を行っているが、正確な利用実績は取っていない。聞き取りでは2、3名である。評判については不満の声はない。知名度不足は否めないが、今後PRに努め利用しやすい運行にする。

安全運行のため、停車可能場所や沿線まで移動しての利用をお願いする。

② 健康について意識が高く、バランスの取れた食事を積極的に取り入れ、慢性疾患にならないよう気をつけている方が多い。以前意向調査を行ったが、利用したい方が12%、しない方が88%だった。配達距離、数量、配達員の確保等で実施できない。今後、これらの課題を来年度調査する予定である。三和食品で、ある程度まとまればサービスを行う予定はありと聞いている。

③ ゴミの個人宅収集は、収集経路、作業員の確保、道路事情などから、今のところ対応は難しい。袋も大中小の3種類があり、また、コンポストの利用も検討願いたい。  
④ 村所有の公共施設は定

期的に業者に委託している。地区所有は地区ごとになっている。

**問2** ①利用している方は、短い距離でも助かると喜んでいただ。周知し利用拡大して欲しい。  
②についての意向調査は7年前と聞いている。その時期から比べ、店も少なく、利用者の考えも変化しているのではないか。早急の調査を行ってほしい。  
③は近所の方をお願いしている方もいる。

**答2** ②必要性は大であり、今後村でも検討し、進めていく。  
③と④は、地域全体の取り組みで、地区代表と相談したい。





長南 正一 議員

### 棚田の保全には積極的な耕作支援が必要 村長 棚田地域振興法も活かし、保全に向け地域の強い意思決定を促す

**問** 大蔵村での全国棚田サミットの開催も2020年に迫っている。このイベントにかける村民の意気込みも盛り上がるものと期待している。一方で、人口減少や高齢化が進み棚田の耕作者の思いとは違う流れもある。大蔵村の大事な自然景観の一翼を担う棚田は「自然遺産」といふべきもの。今こそ大規模な耕作支援を実施し、急傾斜地圃場の排

**答** 棚田を取り巻く現状は厳しく、貴重な遺産であることは認識しながらも、高齢化、担い手の不足と過疎化の進展により、地元住民

の努力だけでは維持保全は極めて困難な状況。棚田サミットの開催を機に状況を再認識し、全村挙げて持続可能な棚田文化の継承を考えた。

支援体制は劇的に変わるが、営農を継続していくのは地域の方々。地域の総意として棚田を守る強い意思決定が必要。村としては、「指定棚田」の認定を受けるべく計画策定を担当課に指示している。



四ヶ村の棚田

の努力だけでは維持保全は極めて困難な状況。棚田サミットの開催を機に状況を再認識し、全村挙げて持続可能な棚田文化の継承を考えた。

国は、棚田の荒廃の危機に鑑み、「棚田地域振興法」を制定した。地元の意向を踏まえ、県の「棚田地域振興計画」の策定、地元「棚田地域振興活動計画」の策定を持って、国が「指定棚田地域」を決定し計画の認定を行う。総務省をはじめ、各省庁の43事業が必要に応じて優先的に採択され、棚田の基盤整備、環境の整備、移住定住の促進や農村交流事業、地滑り対策事業等の支援を受けられる。また、令和2年度は中山間地域等直接支払制度の第5期対策が始まる。6、10年後を見据えた集落の将来像を明確化し、集落機能の強化や農業生産活動の継続に向けた支援が強化される。



海藤 邦夫 議員

### 清水、合海地区の最上川堤防は大丈夫か 村長 ハード・ソフト両面による防災減災対策に努める

**問** 最上川の堤防が完成したのが50年前で、その間大きな被害もなかったが、地球の温暖化など自然環境も大きく変化しており、越水による堤防決壊が考えられその対策が急務である。

**答** 堤防の拡幅・補強工事が施工され、築堤以来、一度も越水や破堤などの洪水被害も無く現在に至り、抑制対策としては、流域全体を考慮することを重要と考え、新庄河川事務所では、流域

全体の整備を順次進め、私たちの生活基盤が確保されております。

近年の災害は甚大で、他県の大河川でも氾濫することと考えると、最上川でも発生する状況にあり、河川整備・堤防強化・河床掘削の推進等を、関係機関へ要望しておりますが、全ての災害を防ぐことは困難である。大事なことは、自分の命を守る行動と共に防災意識を抱き、気象警報や村で

### 役場庁舎、診療所の水害に備えた対策は。また、移転は？ 村長 諸課題をクリアしながら早めに結論付けたい

**問** 役場庁舎、診療所など行政、医療の中心施設は堤防が決壊した場合、機能不全となり、村にとっても甚大な被害が予想される。想定される被害がどのようなものになるか、そしてまた被害を最小限に食い止める対策は考えているのか。

**答** 本村のハザードマップでは、役場や診療所の機能不全は勿論、清水・合海地区の住宅が2階まで浸水する被害が予想され、命を守る行動、事前に全員避難することが最も重要と考えます。

また、日頃から国による

発令する勧告に注視することが最も肝心であり、今後

もハード・ソフト両面による防災減災対策に努める。

堤防の安全管理の徹底と大雨時には上流部の状況を的確に把握し、早めの避難勧告・指示を発令し、氾濫が予想される場合には、災害時は対策本部機能を大蔵小学校など他に移し、職員一

致の認識のもと対応する。また、診療所を含めた新庁舎の建設については、様々な方向で検討しており、諸課題をクリアしながら早めに結論付けたい。



最上川の堤防



八 鍬 信一 議員

### 「学校給食費の減免」は 村長 財源の確保を検討 教育長 教育環境の変化により検討

**問** 近年、子育て支援政策の中で学校給食費を減免する市町村が増えつつある。

これは、保護者の負担軽減を図り、子育て支援等教育環境の向上と充実を目的としたもので、行政・地区民全体で子供を育てようとの意識の現れである。

小学校の給食費は令和になり1食255円。中学では290円である。小学校は年間195食の予定で49,725円。年間約5万円の費用となり、3子の世帯では15万円がかなりの出費である。

保護者からは他で無償にしていることもあり、何とか軽減できないかとの話が出ている。

県内では、鮭川村の児童・生徒の給食費完全無償化が平成29年に実施されているが、色々検討課題もあり、始めに小学校の多子保護者に対する給食費の減免(5子2分の1、3子免除)を村長・教育長に伺う。

**<小学校の多子状況>**  
全校児童169名/119世帯  
●在学児童  
2人が39世帯・3人が6世帯  
●多子割合は  
45/119世帯で38%  
※中学校は73名中2子以上が2世帯  
来年度は4世帯

**答** 村長 現在、学校給食

については、大蔵産米の無償提供による負担軽減と子供たちの郷土愛を育てる観点で支援している。

また、給食費の支払いが困難な案件については、就学援助制度により就学費用について支援している。

本村では給食に限らず、子育て支援として誕生祝い金や保育料の無償化・医療費無償化・子宮頸がん予防接種補助・未来塾の実施・子育て支援住宅建設など、多くの施策を実施して子育て世代の支援拡充を図ってきた。

小学校の多子世帯の保護者に対する給食費の減免については財源の確保など総合的に検討する。

**教育長**  
子どもたちにとって学校給食は、健康維持・食習慣・社交性や共同精神を養うこと。自然の恵み・勤労の大切さを理解する機会をとらえること。

子ども同士で給食の味を共感し、食事の礼儀作法・食糧の大切さの達成感・苦しい食材に挑むチャレンジ精神・多くを学ぶ大切な時間である。

一方、教育施設の老朽化に伴う修繕や、教育備品等に費用がかさみ、学校からの要望に届けることができない状況にある。

そんな中でも、村単独で学習指導員を配置し、特別支援を要する子どもの補助・学習支援も担任教員と協力して行っている。

「村づくりは人づくり」の理念のもと、厳しい財政事情の中でも教育環境の拡充を図ってきたところ。さて、給食については、食事そのものは本来個人が負担するもの。家庭事情で支払いの困難な世帯については、就学援助制度がある。小学校の多子世帯保護者に対する給食費の減免は今のところ考えていない。

しかし、日々教育環境も変化しており、他自治体の動向を見ながら、子どもたちの健やかな成長のため、必要な支援を検討する。

「村づくりは人づくり」の理念のもと、厳しい財政事情の中でも教育環境の拡充を図ってきたところ。さて、給食については、食事そのものは本来個人が負担するもの。家庭事情で支払いの困難な世帯については、就学援助制度がある。小学校の多子世帯保護者に対する給食費の減免は今のところ考えていない。



齊藤 光雄 議員

### 豪雨災害時合海地区の内水対策について 村長 地域住民と一体の防災減災対策に努める

**問1** 今年度着工の合海大

坪線道路改良について地域住民としても大変喜ばしい限りではありますが、季の里地区及びその周辺の山々の雨水が、改良工事に伴う排水路より集中的に合海地区の農地・農業施設(トマト・キノコハウス)商業施設・どんぐり・その他周辺地に影響を及ぼすのは必至であり、今後も異常気象が毎年発生してもおかしくない状況にあり、地区においても

昨年の7月災害で上記に掲げた地域内水が発生しており、それ以上の災害がこの地区において想定されるので『事前防災』を兼ねた根本的な内水対策を実施していただきたい。

**答1** 最上川への排水機場の設置を国へ強く要望し、排水機場設置までの内水対策として、排水ポンプ車などの対応を考え、住民の命を守ることを最優先で、消防団との連携や自主防災組

織による避難誘導活動、洪水ハザードマップを活用した地域住民の防災意識の高揚を図る事など地域住民と一体となった防災減災対策に努める。

**問2** 昭和60年代の災害に

より、合海大坪線が道路崩壊し県道へ大量の土砂が流出させ、民地の山林地が度々発生する災害により法面崩壊、その土砂により、田地に多大な被害を与えている現状をどう考えるか。また、キノコ園付近は、地主が村に無償で土地を提供し水路を布設してもらった経緯があり、今後整備計画される基盤整備事業との関連性・自主防災訓練の実施・地域住民との想定対策協議の場を設け、内水対策を検討だけに止めず実施していただきたい。

**答2** 村長 住居・商業・農業施設地域であり、基盤整備事業と排水溝の関連を深く考えていく。

子ども達を含めての合海地区自主防災訓練実施は敬意を表すと共に、今後、地区と共に一丸となり対応していく。

**地域整備課長**  
道路崩壊災害による土砂流出は道路からの排水によるものではなく異常気象によるものであるが、対策を多方面へ働きかけ、見合った事業が無い現状であり、また道路からの民地への流出は少ないと考える。この付近の内水は異常気象によるものである。



**<全国 多子世帯保護者の負担軽減制度>**  
●「多子世帯の学校給食費に関する減免実施要綱」  
●「多子世帯学校給食費減免制度」  
●「多子世帯学校給食費助成金交付制度」  
**<内 容>**  
●小中学校就学児童生徒  
2子が2分の1減額、3子が全額免除

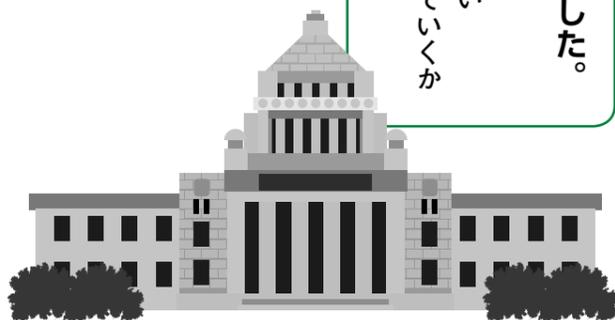


# 町村議会広報 研修会(東京)と 地元国会議員の先生へ取材訪問

令和元年9月24日～25日

令和元年9月24日東京 シェーンバツハ・サボーにて全国町村議会広報研修が行われ、176町村議会が参加した。「読者目線で親しまれる広報紙を作るには」「情報をわかりやすく伝える」「コンクール上位入賞団体の評価」の3部構成で、それぞれ、読者をひきつける様々な趣向や取り組みについて勉強した。特に朝日新聞メディアアプロダクシオン校関連で業部長「前田 安正」氏による文章の作り方については、実践で役立つ貴重な講義であった。これらの研修をこれからの広報作りに活かしていきます。

- 4点について取材してきました。
- ① 議員になるきっかけは
  - ② 議員活動として、何をしたい
  - ③ そのためにはどのようにしていくか
  - ④ 最上地域の取り組みは



編集部特集

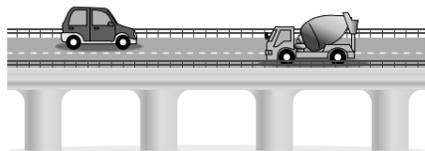
環境大臣政務官  
兼内閣府大臣政務官

加藤 鮎子

衆議院議員



- ① 高校生の時、聴覚障がい者の方から、聴覚障がい者の運転免許取得が出来る法律改正について、父が関わっていて、そのお礼を言われ、父のように人の役に立つ政治家になる夢を持った。
- ② 地元第一の姿勢を貫き、地元の声を力強く届けられるよう活動を積み重ね、「地方創生なくして日本創生なし」を旗印に地域発展のための強い農業作り、基幹産業の発展、新たなチャンスの創造に邁進する。
- ③ 「地域を守り、明日を創る」の5つの柱を基本として活動
  - 1、次世代の「人」をつくる。
  - 2、農林水産業で集落を守る。
  - 3、お年寄りの安心をつくる。
  - 4、インフラ整備を進める。
  - 5、国民の暮らしと安全を守る。
- ④ 広域交流の促進や農業・産業・観光の活性化、豪雨等における災害時のリダンダンシー(自然災害時による一部区間の途絶が全体の機能不全にならないよう、予め交通ネットワークやライフラインの施設の多重化) 確保、医療サービスの観点から十字連携軸の高規格道路の早期整備が課題である。  
大蔵村においても、森林整備も含めた災害対策、肘折温泉郷の活性化、畑作物や米の生産と六次産業化の支援、国道458号バイパスの早期完成を目指したい。



舟山 康江  
参議院議員



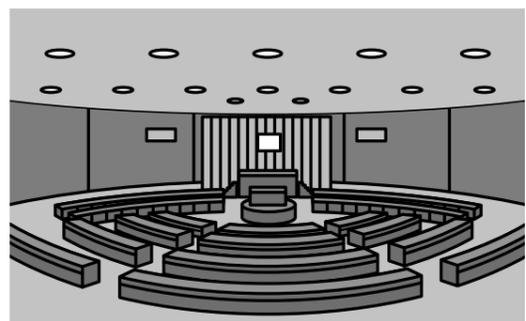
- ① 農水省を辞め、小国町に住んで4年経った頃、元上司から出馬について、声掛けを頂いた。政治家になることは考えていなかったが、当時の鹿野道彦代議士から「大規模農家しか生きられない、今の農政良いと思うか」と問われ決心した。
- ② 原点は農業。直接支払いの導入の実現、食料の分野でも命を守る安心安全の取り組み。当時の小泉内閣の構造改革は、競争原理、弱者切り捨ての政治。そうではなく、皆で支え合う仕組み「競争より共生の政治」を目指した原点を今も基本においている。
- ③ 「現場の声なくして、政策はない。」声をきちんと受け止めて、代弁しながら、現場目線で人への投資を行っていききたい。消費税増税による負担増や分かりにくい軽減税率、「働き方改革」も一律の制度では雪国の生活にあっていない。冬場と夏場の働き方のバランスをどうするのか、除雪や災害時対応など、現場の声をよく聞いて現場の実情を踏まえ、政府に迫っていききたい。
- ④ 道路等の遅れているインフラ整備を進めて行きたい。併せて、米だけに頼らず、園芸作物を頑張っている農家の皆さんの声を吸い上げ、施設整備など一層支援していきたい。また、農業の原点の中に象徴としての棚田がある。棚田振興議連として、省庁横断の取り組みが出来る法整備を始めている。



芳賀 道也  
参議院議員



- ① 民放のアナウンサーとして取材してきた中で、地方や現場の声が政治に届いていない。「働き方改革」にしても中小企業がどうなるかを考えないで決まっている。以前は政権与党の中に民主主義があり、軌道修正が行われていたと思う。今は感じられない。まさに「なんとかさんなね」がきっかけである。
- ②、③ 与党の中に内閣(行政)を監視する番人がいなくなっている。私が国会議員になれたのも草の根の力だと思う。地元、現場の声を傾けしっかりと働いてゆきたい。
- ④ 繋がらない高速道路、インフラの整備が急務である。高等教育の4年生の大学がない。サテライト形式であっても何らかの枠組みを作っていききたい。農業では代々続いてきた家族農業を守っていくため、個別所得補償の復活も目指したい。過疎地でも同じ医療が受けられるよう動いていく。高齢者の足の確保が必要。



編集部特集

# 議会報告会 開催

# 貴重なご意見 ありがとうございました。

### 肘折センター 12/11

意見・質問内容 回答・今後の対応

- 村事業 災害時の避難場所や、防災センターの備品等の扱いが不明 担当課に配慮を要請します
- 村事業 個人への除雪補助あるが、旅館など営業施設に補助制度が無い。検討してほしい 担当課と協議します
- 村事業 災害時に於ける一人暮らし家庭への支援策を検討してほしい 担当課と協議します
- 村事業 「肘折夜市」村の助成が今年で終了。今後も継続してほしい 担当課と協議します
- 広域・国・県 国道458号肘折・寒河江間の通行止めの解消を 改良工事来年で完了予定
- 議 会 議会の中央要望の効果は？ 継続こそ重要と考えています
- 村事業 冬期除雪、村県道管轄者の連携不足 担当課に確認します
- 村事業 深夜等に雪での倒木や雪崩により通行できない場合の連絡先は？ 警察に110番願います
- 村事業 小水力発電事業内容について説明不足。村民に対しさらに周知を 担当者と協議します
- 村事業 地蔵倉までの遊歩道が老朽化して危険、対応していただけないか 担当課と協議します
- 村事業 スズメバチの巣の駆除、対応方法は？ 地区代表を通して役場へ
- 村事業 目的税となる観光税の創設を 担当課と協議します

### 赤松センター 12/12

意見・質問内容 回答・今後の対応

- 村事業 地区代表等、地区内の役職のなり手不足が深刻 各地区共通の悩み。考えていきます
- 村事業 地区の共有地(共有林)の相続が心配 解決法を提示できるよう検討します
- 村事業 圃場整備が進み、農業は法人化で地域が大きく様変わり 地域全体を見直す契機になると考えています

### 白須賀センター 12/13

意見・質問内容 回答・今後の対応

- 村事業 村の人口減少著しい、役場の職員体制(人件費)このままで良いのか 深刻な課題、十分考えていきます
- 村事業 三和食品大蔵工場、村に対してどの程度恩恵があるか、検証が必要 随時検証していきます
- 村事業 小水力発電事業内容について説明不足。村民に対しさらに周知を 担当者と協議します
- 村事業 いでゆ・カルデラ館の運営に高額な委託料の支出。このまま継続？ 担当課と協議します
- 村事業 基盤整備事業により土地の集約化、法人化が推進。余った労働力は？ 事業推進に合わせ、検討するように配慮
- 村事業 空き家対策について村の方針が見えない。このままで良いのか 重要な課題として考えていきます
- 村事業 住宅近辺の災害復旧を進めてほしい 担当課と協議します

### 味来館 12/11

意見・質問内容 回答・今後の対応

- 村事業 棚田米の出荷方法(独自の集出荷～流通システム)を検討してほしい 担当課と協議します
- 村事業 棚田米の品質の統一化を図るなど、ブランド化を考えるべき 担当課と協議します
- 村事業 米粉の活用(生産・販売)を考えるべき 担当課と協議します
- 村事業 農産品の貯蔵販売をさらに図るため、雪室施設がほしい 担当課と協議します
- 広域・国・県 排水トンネルの地下水(冷気)利用を考えるべき 担当課と協議します
- 村事業 中央で活躍している村出身者の力を借りて村企業の活性化を図れないか 村当局と一緒に検討します
- 村事業 棚田サミットを村全体の課題解決の機会ととらえ、その後に活かしてほしい 同感です。考えていきます

### 中央公民館 12/13

意見・質問内容 回答・今後の対応

- 村事業 清水・合海地区全体での防災体制が不十分 担当課と協議します
- 村事業 浸水区域内に役場がある。緊急時の対応取れるのか 庁舎改築の検討中、注視していきます
- 議 会 本当に必要な予算計上しているか。議会のチェックが重要 今後もしっかりチェックしていきます
- 議 会 議会の視察について報告しているか 議会だよりで
- 村事業 高齢者対策の政策を望む 重要な課題。議会で協議します
- 村事業 三和食品大蔵工場の雇用状況が不安。雇用契約等満足した内容か 担当課に伝えます
- 村事業 小水力発電の詳細が不明。詳しい内容を聞きたい 担当者に伝えます

### 南山交流センター 12/12

意見・質問内容 回答・今後の対応

- 村事業 三和食品大蔵工場、当初の計画から変わっている。議会の関与がもっと必要 随時検証していきます
- 村事業 村は人口減少に対する危機感を常に発信しているが、具体策を示すべき 難しい問題。協議します
- 村事業 役場は水害の無い場所にとの考えだが、子育て支援住宅等の整備と矛盾しないか まだ、候補地が決まっていない状況
- 村事業 宅地分譲事業進めたが、子育て支援住宅への入居の把握しているのか 担当課に確認します
- 村事業 旧JA山形もがみの本店部に役場機能の活用を図れないか 村と協議します
- 議 会 議会報告会での各地区の意見を共有できるように 議会だよりで紹介します
- 村事業 高齢者の集合住宅を考えるべき 村当局と協議します
- 村事業 月曜朝の窓口での相談がしづらい。朝礼早く終わらせて！ 村当局に伝えます



肘折センター会場



南山交流センター会場

大変お忙しい中にもかかわらず、多くの方から参加していただきました。  
感謝申し上げます。  
議員一同

議会報告会

議会報告会

# あれから、どうなった?

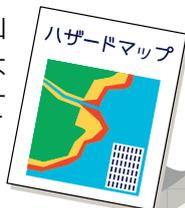
## 検証・提言

No.2

今年度も自然災害が全国的に猛威を振るいました。村も例外ではなく、最上川の増水による田や畑への浸水被害は、昨年度よりは少ないですが、毎年繰り返されています。防災に向けての村の取り組み状況を今回は検証します。

### ハザードマップ?

最上川の洪水・土砂災害のマップはH30年3月に出来ている。赤松川、銅山川については県に要望している。



### 水害防止対策?

(最上川増水による内水の対応)

排水ポンプ車、H28年 村に配備し、八銚土建に管理を委託。



### 自主防災組織、活動の指導研修?

赤松、合海地区にて今年度は開催。女性の防災研修も検討中。



### 避難所の民間施設等の利用?

寺や地区公民館など、前向きに詳細について検討中。



### 防災無線?

(効果的に伝わりやすく、音楽を流しては)

地区の意見を参考に検討。



### SNS利用?

エリアメールは今年度から発信している。その他のSNSは検討する。



### 議会広報調査特別委員会

委員	委員	副委員長	委員長
藤光雄	矢口智	佐藤雅之	早坂民奈

笑う門には福来る

体育館に響き渡る子ども達の大きな「よいしょ よいしょ」の掛け声と笑い声。今日は自分たちで育てたもち米での収穫祭。初めて持つ重たい杵に四苦八苦し、一人では持てずに数人で仲良く餅つきをする子供たちの顔は、満面の笑み。親子や夫婦で息の合った餅つきを披露する家族もあり、体育館はほんわかとした温かい空気に満ち溢れていました。機械が主流で杵や臼でもちをつくる事が珍しくなり、貴重な体験です。

令和と年号が変わり、明るい未来を描いても、子どもたちを取り巻く社会は課題が満載。

この笑顔がいつまでも続くよう私たち議員が何をすべきか、やらなければならぬのかをしっかりと見つめ直し、頑張っていきます。

今年もよろしく願っています。  
(早坂民奈)

### 後書き